【第137号　二〇一六年　五月　五日発行】

福音の園®だより

平成18年度「高年齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
平成27年度「介護職員確保・定着の為の優れた取組」表彰

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016　埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人　福音の園・埼玉　事務局
☎049-230-1111(FAX230-1112)

福音の園®、Gospelgarden®は有限会社シャロンの商標

理念・方針説明

理念を「飾り」としないために―

「ヒヤリハット」と「ニヤリホット」

グループホーム　福音の園・川越　ホーム長　杉澤　卓巳

12回目となります「ファミリークリスマス会」にようこそお越し下さいました。皆様を心から歓迎申し上げます。

私共の福祉・介護の世界では、入居者（通所者）の皆様が危ない目に遭うおそれがある場面、つまり「ヒヤリ」としたり「ハッと」したりした事例は、その場限りでうやむやにせず『ヒヤリハット報告』として記録することを大切にしています。

ところが、最近『ニヤリホット報告』が注目されています。ヒヤリとしたりハッとしたりした事例を集め、全員でこれを共有するのではなく、「ニヤリホット」はその逆で、入居者（通所者）の良いところを見つけようとする活動を指しています。企画した一人・介護サブリーダーの和田悠三さんは言います。以前、車イス生活の92歳女性が、和田さんらが目を離したすきに車イスから立ち上がって歩こうとしたことがあった。「ヒヤリハットでは、見守りをおろそかにするな、と結論付ける。ニヤリホットでは、この女性が歩こうと頑張っていると報告書に記録した」。報告書は女性のケアプランを担当するケアマネジャーの目に留まった。やがて、トイレ介助の際、自力で車イスから立ち上がって数歩歩いて便座に座ってもらうようにした。**行動を制限するヒヤリハットでは実現しない身体機能の向上につながった**。和田悠三さんは、「職員とお年寄りとの距離が縮まった。今では月間10件ほどのニヤリホット報告がある。話したがっていると云う報告を受けて、対話を心掛けた結果、心を開いた入居者もいます」と、手応えを感じている旨が紹介されていました。

職員とお年寄りとの距離が縮まること

本日のクリスマス会で「ニヤリホット報告」について、ご家族の皆様にご紹介したいと事務室でメモ書き準備しておりました。すると、職員の一人が、高笑いしながら92歳Kさん居室から出て来ました。「Kさん、手を出して、手を出して！」と介助していたら、「イヤだ！」と拒否された。「どうして？」と聞き返したら、「人間、余計な事に手を出したら ろくな事がない！」って言われてしまった。的が外れているのに、あっているようにみえる独特な返事。これが「ニヤリホット」です。

朝、「お早うございます」とお声掛けして回りましたら、89歳Yさんが、思いがけない言葉を返して下さいました。「まだ、母さんもばあちゃんも生きているので、私ももう少し生きていてあげたいと思ってます。まだ死にたくないんです！」。これも立派な「ニヤリホット」です。世の中には、顔を見るなり「死にたい、生きていてもしょうが無い！」と呟くお年寄りがたくさん居る中で、「もう少し生きていてあげたい」のお言葉が、私の心を「ホット」にしてくれました。

以前、「ホーム長さん、私、ショックで立ち直るのに2、3日かかりました！」と話し掛けて下さったご家族がおられました。ある時、職員の一人と長女さんであるご本人とが、並んで「お父さん、どっちがあなたの娘？」と尋ねた。すると、職員を指差した。それがショックで立ち直るのに2、3日かかった、と。けれども、冷静になってみてわかった。「福音の園さんでは至れり尽くせりで、父の身になって何でもやって下さっている。それ位に良くして下さっているからだ」と理解して立ち直ることが出来ましたと感謝された。これも立派な「ニヤリホット」です。

私たち職員とお年寄りとの距離が縮まってどうなるのか？　自分の父や母のようにしてお世話させていただくことが出来るようになります。結果、「仕方なくお世話する業務上の介護」から、**「喜んでお世話する愛の介護」**へと**介護の実質が成熟**してまいります。私たちは、理念を「飾り」としない**「福音の園」**を目指してまいります。

【註・昨年12月23日「第12回ファミリークリスマス会、第一部」歓迎挨拶を掲載しました】

来訪歓迎

機器導入後・腰痛予防研修　〇〇　〇〇様（さいたま市）
㈱ブリランテ**ブリランテ介護サービス様**（13名・川越市）

御礼

タケノコ　〇田　〇子様（南房総市）